



江工高

進路だより

発行

島根県立
江津工業高校
進路指導部

島根県江津市
江津町1477
電話
0855-52-2120

地域に愛され、必要とされる存在に

教頭

松原紀夫

令和になって初めての卒業生が本校を巣立っていきます。今年度は、就職内定者の7割が県内で就職することになり、本校が取り組んできた地元産業の担い手の育成に向けた成果が表れてきたと思います。工業高校で「ものづくり」を学び、その経験にこれからたくさんの方の知識・技術を積み重ねていってけると思いますが、進学を選んだ人も高度な専門知識を身につけてそれぞれで活躍してくれることを期待しています。

これから社会に出ていく卒業生の皆さんは、新しい環境の中で、不安な日々を過ごすことになるかもしれませんが、高校のときよりも自分の力で解決しなければならぬことが増えてきます。でも、三年前を思い出し、試してみてください。同じように慣れない環境の中で、少しずつ自分の居場所をつ

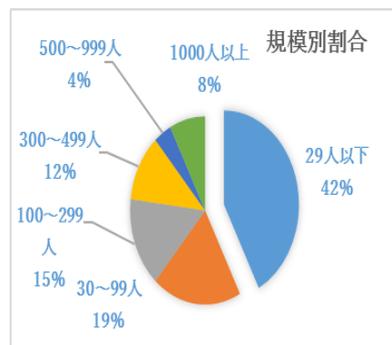
くってきたと思います。人との距離、学んだこと、できるようなったこと、少しずつでも自分の変化が自信に変わってきたと思います。4月からは、親元を離れて生活する人もいます。家族のありがたさ・大切さを改めて感じることで、新しい生活に臨んでください。生徒の皆さんは、本校を卒業したら「○○で就職したい。」とか「○○専門学校へ行ってさらに勉強したい。」などの目標をもって入学してきた人が多かったと思います。卒業生の皆さんは思い描いたとおりになりましたか。一・二年生の皆さんは、その目標のための努力を続けていますか。人はどうしても毎日の生活の中で目標や夢、志を忘れてしまいがちです。卒業式や入学式など節目の行事で、自分の今の気持ちを整理してみてください。自分に嘘をついて、楽な道を歩こうとしていませんか。これからの社会では、どこで学んだか、何を学んだかではなく、今何ができるかが問われています。もちろん

進路状況について

進路指導主事

福原 朋久

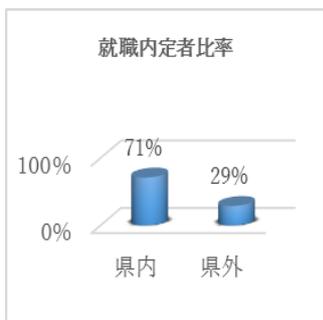
本校では、一年生時に「自分を知る」ことに繋がる進路学習をし、二年生では「一人・地域と繋がる」をテーマに仕事をしていく上でその場所での生活をする事を認識させ、三年時には、



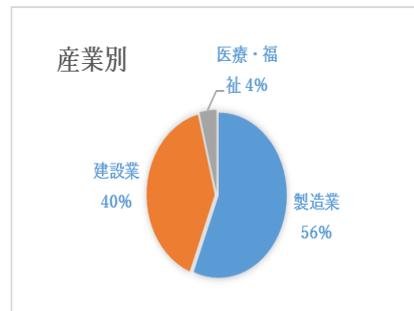
「仕事・職業につながる」学習をしています。この結果、今年の卒業生の動向が表のような結果となりました。

卒業生の約8割が就職をし、2割が進学している状況です。この傾向は、過去数年間を観ても同じ事がいえます。

進学者は、四年生の大学、専門学校、高等技術校、ポリテクカレッジ島根と個々の目的に応じた進学を果たしています。就職者のうち、約7割近



くの者が県内で働きます。なかでも今年は大田・江津



・浜田地区で仕事に就く者がほとんどです。県東部で仕事に就く者はほとんど居ない状態です。県の誘致企業政策もあり、本社が県外でも、働く場所等が石見地域にあるので将来の生活スタイルを踏まえて就職を考慮することが出ています。本校からは、約7割以上の者が従業員300人以下規模の企業に就職しており、学校で学んだ事を活かした職業に多くのものが就いています。製造系は機械・ロボットの勉強をしてきた者が、建設系には建築・電気の勉強をしてきた者が就いています。

ハローワークと情報を共有した学校推薦による就職内定率は100%です。生徒が社会的・職業的に自立できるようにきめ細かい指導を行っています。企業側の視点に立って考えることが出来るように勉強して

これまででは求人を考えて頂ける企業数が非常に多く求人数も多い状況でした。令和二年度から少し様相が変わりそうです。企業側の人事担当者と話していると、来年度からは、求人企業数は今年と同じように多い状態が続くと思われすが、今までの傾向と違って求人数が減ることが予想されます。徐々にですが、企業側の人員不足が少し改善してきているようです。

科長より

新たなステージ
機械・ロボット科長
乃木良

三年生の皆さん、いよいよ新しいステージに立つ時がやってきました。しっかりととした歩みでこれからの進んでください。就職する人はもちろんですが、進学する人も近い将来に職に就くでしょう。また、在校生の皆さんも同様です。就職するにあたって気になるのは「企業で働くときに何が求められるのか」ではないでしょうか。人事担当の方や現場のチーフに聞いてみたところ、次の三つの答が多かったです。まず、「コミュニケーション

「ヨン力がある人」です。職場には必ず上下関係があります。そこでは、年代差をわきまえながら、はっきりとした言葉で報告や連絡、相談ができる人が望まれます。ちなみに、報告とは先輩や上司に状況を伝えること。連絡は歩調が合うように同僚や部下と情報を共有することで、相談は問題を解決するために知恵を出し合うことです。

二番目は「明るく元気で素直な人」です。高校を卒業したばかりの人の魅力は、やはり活力と吸収力。活力のある人が入社すれば職場の雰囲気もよくなり、結果として業績が伸びます。また、素直であれば仕事を早く覚えられ、スキルアップを実感できます。三番目に「前向きな人」です。仕事をすれば十中八九、嫌なことに会います。楽しいことより、辛いことの方がむしろ多いと感じる時期を迎えるかもしれない。けれども前向きな考えを持っていく人は、へこたれずに同僚や先輩とんだかんだやりながら問題解決の糸口を見つけていくでしょう。

ループ全体では三万人規模で、入社後に北九州の事業所でみっちり研修を受けてから、大きな製鉄所内でH鋼や鉄道レールの製造工程を担当します。人事担当の方は、「仕事を覚えながら人間力を磨いてほしい。昇進の仕組みがはっきりしているのでも支店長を目指す気持ちでやってほしい。あるいは技能を磨いてマイスターになるのも良い。」というコメントでした。扱われる物が大きかったり、作業環境がきつめだったりするので自社教育を大切にしている訳です。

二社目はビルメンテナンス会社で、設備保守や清掃、警備が主な事業です。コメントは「与えられた仕事の目標や会社にとっての意味を考える人を求めている。入社後三年間は寮生活をし、朝食をきちんと摂る習慣を身につけさせている。」でした。生活力は仕事力に通じているという考えが伺えます。

卒業される皆さんへ

建築・電気科長

田中 信二

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様によりお祝いを申し上げます。

さて、私たちは、なぜ働くのでしょうか。働くとは何だと思えますか。一年ほど前になりましたが、NHKで放映された「目撃ニッポン 働いて人生を取り戻す」という番組を見ました。あらすじを少し。ある屋根工事の会社は、職人の高齢化や人手不足に悩み、全国に60万人以上いるといわれるニートの若者を雇うことにします。この番組は、その指導を任された65歳のベテラン職人と元ニートたちの悪戦苦闘のドキュメンタリーです。十年間ニートだったAさんは、数か月の研修の後に正社員になり、今では現場の工事を任されるほどになります。「親の収入で与えてもらって、近いのはペットかな。今やっとならしくやれている」とニート時代を振り返ります。また、指導役のベテラン職人は、「この仕事は自分次第で、家主のために最大に貢献できたと自分が実感できる」と若者に熱く伝えます。番組の最後に、若者たちは自分たちが初めて屋根を完成させた家を見に行きます。「ちゃんと責任を持つてやらなくてはならない仕事をするようになって

た」と屋根を見上げながら言うところで終わります。

日本理化学工業株式会社の大森泰弘氏によれば人間の究極の幸せは、愛されること、褒められること、役に立つこと、必要とされること、の四つだそうですが、愛以外の三つの幸せは働くことによつて得られると思えます。そして、究極の幸せが働くことを通じて得られるのであれば、それは長続きすることが条件です。なぜならば、早々と辞めてしまふようでは、周りの人の役に立ち、必要とされるまでには至らないと思うからです。

私の高校生活

建築コース主任

中島 雄毅

私は約三十数年前に工業高校建築科を卒業しました。当時、進路について深く考えて生活をしてきたかというところ、それほど考えていたわけではなかったと思います。進路のことより、製図などの宿題や部活動、生徒会や学級活動に追われ

ながら懸命に楽しく、おおよらかに高校生活を送っていました。当時は学校・民間企業主催の企業説明会や進路ガイダンス・インターンシップもなく、求人票や大学のガイドブックを見て一方通行の情報で進路を決めていたように思います。今の高校生は圧倒的な進路の情報量で直に企業や大学、専門学校と話ができ、インターネットで手軽に早く情報が得られ恵まれた時代だと感じています。だから、皆さんにはこれらをうまく利用し失敗のない希望の職種、進学先を探してもらいたいと思います。ですが私の高校生活は進路探しのために何をすればいいのか考えていた訳でもなかったのですが、今考えると目の前のことを頑張っていたことが進路決定や社会人として必要なスキルを身に付けていたと思っています。

○コミュニケーション

高校生活は同級生に恵まれ、助けられながら様々な学級活動をしました。一・二年時の予餞会（三年生を送る会）では学級代表の一員として体育館を爆笑の渦とし、三年時は科の応援団長として科全体を動かし、生徒会として生徒会行事や生徒会誌の編集に励み苦労と達成感の日々でした。これらの経験は、人前に出る

○体力

高校生としてやり遂げたこととして皆勤賞を貰ったことです。毎日自転車で40分かけて登校し、冬の吹雪や夏の暑さに耐え、また高熱があっても登校し、休む事をよしとしませんでした。また、剣道部として励み、当時は県の強豪校で国体選手も輩出する部として練習はお互いに厳しく、休むことはあり得ない空気でした。こうした経験は遅刻をしない、休まない、製図の課題で徹夜がしばしば続く環境の中でもへこたれないなど、粘り強く、忍耐力や体力が養われていました。

○素直さ

三年間は学業や学校活動、部活動全てをやりこなすことが精一杯で、他を見る暇がなかった高校生活でした。ですから、周囲の話を指導を素直に受け入れ、その線路に導いてもらうことで高校生をやりとげられました。また、それが楽であつたかもしれせん。ですから、先生方や先輩、同級生からは好かれていました。（真実はどうか）今でも、高校時代の同級生や先輩・恩師から仕事の事や私生活のことで協力して

いただく中で今の仕事に結びついています。

高校生活の三年間はさすがに終わります。日々何を考え、熱中することがあるのか、楽ばかり考え、わがままな学校生活を送るのか、私達に与えられた365日をどのように過ごし、考えて生活するのもかみ進路だと思いません。企業や進学探しも大事ですが、自分の能力を知り、改善し、社会に必要とされる人材となるよう高校生活を前向きに挑戦してみませんか。部活や学級活動、学業など頑張った人だけにきつと明るい未来が



担任より

人間万事塞翁が馬
機械・ロボット科(三年主任)

内田 邦弘

最近、この言葉をたまたま目にしました。人生は自分の思い通りにはならない、と解釈していました。改めてこの言葉を調べて、いままでの考えを改めさせられました。

辞書には「世の中のあらゆることの運・不運は定まらないものだ」というたとえ」とありました。この言葉は昔の中国の出来事から

生まれれていて、その出来事は次のとおりです。

昔、中国の北方の塞（とりの）の近くに翁が住んでいたが飼っていた馬が逃げた。しばらくするとその馬が別の優れた馬を連れて帰ってきた。今度は、その優れた馬に乗った老人の息子が落馬して足の骨を折ってしまった。しかし、そのおかげで兵役を逃れられた。この話を由来とし「世の中で起こるあらゆることはまるで塞翁の馬のようだ」ということわざが生まれたそうです。また「人間万事塞翁が馬」の「人間」はにんげんではなく、じんかんと読み、人の世を指すようです。

この出来事は、幸せだと思っていたものが不幸の原因になったり、わざわいの種だと思っていたものが幸運を呼び込むこともある様子を描いています。その中で、やはり幸せ、不幸せを決めるのは自分次第だという点が重要だと思えました。そして、幸せ、不幸せを感じる自分自身を成長させなることが大切だと感じました。また、人の世の運、不運は定まらないものだからこそ自分のできることは一生懸命やらなければならぬと思えました。

卒業生のみなさんの人生もまた「塞翁が馬」である

ならば、どのようなところ構えて臨みたいと思いますか。みなさんがそれぞれの場で活躍されることを祈りながら、その活躍の便りがとどくことを楽しみにしています。

「過去に囚われず・未来を恐れず・今を生きる」

建築・電気科

三好 良

これから就職する人は、同じ会社で定年退職まで勤め上げ、家族や家を持ち、といったいわゆる「普通の生活」を送る予定かもしれないが、そのような未来はおそらく皆さんのうちのごく一部しか歩まない、歩めないと思います。皆さんが知らないうちに、世界中のすごい人たちが、日々新しい技術を開発し、世の中を変えています。今までは、学校に行き、保護者や先生のいうことを聞いておけば良かったかもしれませんが、これからはそんなに甘くないです。

これからは、さらに権威が薄れていきます。親、上司の言うこと、マスメディアがいうこと、自分より上の存在のものがいうことに従い、上手くいく時代はとうに終わりに近づいています。これは、インターネットがもたらしたグローバル

化によるものです。さらに、今の常識が十年後二十年後には、全く通用しなくなっている可能性が非常に高いです。仕事、家族、社会の制度は大きく変わり、人間関係も変わっていくことになりません。また、常識、道徳、倫理といったものも五十年で簡単に書き換わっていきます。

これからは、できるだけ多くの「情報」に自分で触れてください。スマホを使えば簡単に「情報」に触れることができ、世界中のすごい人たちの「情報」にたどり着けます。そして、そうやって仕入れた「情報を整理」し、「自分で考え」「発信していく」癖をつけて下さい。発信には会話、SNS、ブログなどがあります。それらを通してできるだけ毎日発信し続けてください。そうすることで、「自分の判断」ができるようになります。

過度の未来への不安は必要です。老後のことは老後になってから考えましょう。五十年前の、五十年後の予想は笑ってしまうものばかりです。十年前の皆さんは、スマホを持ち、LINEやインスタが流行るなんて想像してましたか？そして、過去を悔やんでいない暇も皆さんにはありません。

未来には楽しいことしかないはず。どうすればいいのか。それは「今を一生懸命に生きる」ことです。



江津工業での三年間
機械・ロボット科
佐々木智康

私が江津工業高校に入学してから約三年の月日が流れました。もうすぐ卒業かと思うたびに、悲しく思います。

日々の生活の中で友達とふざけ合い、叱られることもしばしばあり、先生方には大変ご迷惑をおかけしました。部活動ではキャプテンをさせていただきました。周

囲の状況を理解し行動する力が伸びたと思います。大会では団体戦で県ベスト4に入って、中国大会に二年連続で出場しました。悔いなく、日々の練習の成果を出し切ることができました。少しでも顧問の先生方への恩返しになれば嬉しいです。

江津工業高校の良い所は男子生徒が多く、県で一番元気な学校と思えるほど一人一人が生き生きと生活しているところ。これからも活気ある江津工業であって欲しいです。

四月からは地元企業に就職します。入社後は上司や同僚とコミュニケーションを取り、積極的に自分から動き、仕事に取り組んでいきたいと思えます。

充実の高校生活
建築・電気科
電気コース
加戸 昌紀

江津工業で過ごした三年間を振り返って見ると、様々な楽しい日々が頭をよぎりますが、中でも、部活動と資格取得に向けた勉強の日々は特に思いに残っています。

部活動では、私は、バスケットボール部に所属していましたが、同級生の人数が少なかったため先輩や後輩と

コミュニケーションを図る機会が多かったです。最初は、上手くコミュニケーションを図ることはできませんでしたが、共に汗を流す事で一体感が生まれ、信頼関係を構築することができました。

資格取得に向けての勉強では、クラスの友人達と遅くまで残り、一緒に勉強に励みました。毎日勉強を続けることは、とても大変でしたが、皆で分からない問題を教え合う事で、全員が一丸となって本番に臨むことができました。

その他にもこの三年間で苦労することは多くありましたが、それと共に乗り越えていく力もつきました。社会人になると、もっとたくさん苦労することがあると思いますが、この三年間で身につけた力を発揮して頑張っていきたいです。

三年間をふりかえると
建築・電気科
建築コース
植田 駿介

江津工業での三年間を振り返ると、この三年間はあっという間に過ぎていってしまったという思いが強いですが、私は、江津工業で大きく二つのことで成長することができました。

まず、部活動です。私は、サッカー部に入部しましたが、中学生の時は文化部に所属してましたので、入部してからは毎日が心身ともに辛かったのですが、部員のみならず励まし合いながら頑張ることができ、心身共に成長できたと思います。

二つ目は、資格取得に向けた勉強です。私は、三年間で多くの資格に挑戦してきましたが、はじめの頃は自主的に勉強するのが嫌でした。しかし、合格することが励みとなり、結果的には自主的に勉強することが習慣になりました。この他にも江津工業で、多くの事を学び、経験することができました。私は、今年の春から社会人になります。不安なことたくさんありますが、江津工業で学んだ事をいかし、社会に貢献できるように、努力していきたいです。

